

日本に仏教を導入された聖徳太子への信仰とその思想は、日本の歴史や文化の中に連綿として受け継がれてきました。夏の「たいし塾」の講座では、聖徳太子信仰や聖徳太子の思想が今日まで受け継がれた歴史的背景について学んできました。今回は、そうした太子信仰が具体的に示される場であるゆかりの寺院の仏教芸術や、仏教芸能について学びたいと思います。昨年度から継続されてきたさまざまな聖徳太子1400年御聖忌行事も、めでたくフィナーレの時期を迎えようとしています。そうした時期にふさわしく、この講座でも祝祭的な要素を中心に取上げます。

11/26(土)

【A】 聖徳太子の御霊をお慰めする聖霊会とは

13:30~15:00

—四天王寺の聖霊会とその歴史—

南谷 美保 教授

四天王寺をはじめ聖徳太子ゆかりの寺院で執り行われる聖霊会（しょうりょうえ）は、聖徳太子のお命日にその御霊をお慰めする法会です。現在の四天王寺では、毎年4月22日に大規模な古式ゆかしい舞楽大法会として執り行われています。その舞楽大法会の構成、歴史、見どころなどを解説します。

12/10(土)

【B】 聖徳太子ゆかりの寺院とその芸術

13:30~15:00

—飛鳥仏教の美を探る—

藤谷 厚生 教授

太子がお住まいになられた奈良斑鳩の里には、法隆寺や中宮寺といった太子ゆかりの寺院が現存しています。そういった太子ゆかりの寺々に残る仏像や工芸品を取りあげて、飛鳥仏教の美とは何か一緒に考えてみましょう。

2/4(土)

【C】 「聖徳太子絵伝」とその絵解き

13:30~15:00

—聖徳太子の何を伝えたかったのか—

南谷 美保 教授

四天王寺よりの絵解きご担当の僧侶の方
本学学芸員養成課程修了予定学生

聖徳太子の生涯を絵で描き、障壁画や掛け軸、巻物などで表現した「聖徳太子絵伝」についての概説をふまえて、四天王寺大学において学芸員課程を履修している学生による「聖徳太子絵伝」に関する展示（学生による解説付き）を御覧いただき、その後、四天王寺聖霊院絵堂の壁画「聖徳太子絵伝」のレプリカで、四天王寺よりお越しいただく僧侶による絵解きを拝聴します。（ただし、絵解きは、完全版だと90分ほどかかりますので、30分程度に短縮したものをお聞きいただきます。）

受講申し込み方法

令和4年度

お電話でお申し込み

電話番号

072-956-3345

〔受付時間〕

9:30~17:00(日曜・祝日を除く)

受付完了

ご自宅へ関係書類をお送りします。

受講

受講初回は地域連携推進センターへお越しく下さい。

教室をご案内します。(2回目以降は変更案内が無い限り同じ教室)